



## プロジェクト名

## 先進的な森林セラピー基地の取組を踏まえた鳥取県八頭町におけるニューツーリズム振興方策

森林セラピーは、医学的に解明された森林浴効果のことで、都会でストレスの多い生活をしている人たちに森林浴体験を通じてストレスを癒し、都会と森林地域の交流、ひいては森林地域の活性化も期待されています。全国62か所の森林セラピー基地等では、専門のガイドによるウォーキングに加え、現地の新鮮な食材による食事の提供や森林でのヨガ体験等のメニューも実施されています。



▲ 智頭町での森林セラピー体験の様子  
生憎の雨でしたが・・・

その結果、森林セラピー基地の中でも、先進的な取組が行われている地域は、体験型交流型の観光を重視するエコツーリズムやヘルスツーリズムなどのニューツーリズムの観点からも高い評価を得ていることを明らかにできました。こうした森林セラピー基地での取組を活用し、鳥取県各市町村におけるニューツーリズム振興を図るべく、市町村関係課に対するアンケート調査を行い、今後観光で活用したいと考えている森林や参考にしたいと考えている森林セラピー基地における

経営学部 細野担当プロ研1～4では、2014年度より、森林セラピー事業の展開と農山村の再生をテーマとし、鳥取県智頭町の森林セラピーコースの現地見学や全国の森林セラピー基地等担当者や智頭町事業参加者へのアンケート調査などを行ってきました。

取組を把握させていただきました。その結果を踏まえ、2017年度は、八頭町八東ふるさとの森と同町の主要な観光資源を対象にした調査を実施しています。本プロジェクト研究は、本学の「麒麟の知(地)による学生教育プログラムの開発・展開」の一環ともなっています。今年度は、これまでの先輩達の研究成果をフォローしつつ、手分けして関連書籍や資料を調べ、10月29日に智頭町芦津の森林セラピーロード、11月26日に八頭町八東ふるさとの森に現地見学に出かけました。智頭町では、ガイドの方の説明を受け、ウォーキングや五感を研ぎすます体験をし、八頭町では、八東ふるさとの森の所長さんの講義と案内でふるさとの森事業の現状と課題を理解することができました。



▲ 八東ふるさとの森 高田所長による講義  
外では既に降った雪が残っていました。

現在、「鳥取県に住むことになり、鳥取県内を旅してみようという環境大学生や教員の視点」+「森林セラピー基地の取組から得られた知識の応用」によって、鳥取県内市町村の「住まうように旅する」の実現に向け、何か貢献できるような提案をすべく、メンバー全員で取り組んでいるところです。

プロジェクトアドバイザー 経営学部 細野宏 教授

## プロジェクトメンバー

プロ研2：金森秋波、崎野奈央、杉本糸音、征矢勇人、高須賀大(環境学部) / 金山あかね、乗原圭希、小林亮太、島村聡汰(経営学部)

プロ研4：藤井和将、松原甲斐、柳町周(環境学部) / 松本果子、森永大貴、山中薫、和田侑大(経営学部)

## 国際交流

異文化を体感しながら楽しく学べる「英語村」を開設しています。

## イベントの様子



本学では、自由な雰囲気なかで、多様なイングリッシュスピーカーとの会話やアクティビティ(料理、クラフト作成、ゲームなど)を通じて、異文化を体感しながら楽しく学べる「英語村」を開設しています。手軽に英語に触れられる実践の場として毎日のように英語村に通い、語学力を磨いて海外留学に挑戦する学生もたくさんいます。

## 学生インタビュー



大津賀 浩世  
(環境学部 3年)

英語村をきっかけに、英検や英語でのプレゼンテーションに何度か挑戦しました。中でも海外留学を通し、多くの人との出会いからコミュニケーション能力や物事にチャレンジする力を養うことができました。

英語村には大学生活において再度自分を見つめ直し、視野を広げるチャンスがあります。

## まちなか英語村・出張英語村



まちなか英語村

鳥取東高等学校での出張英語村

大学での英語村のほか、本学まちなかキャンパスで毎週木曜日に行う「まちなか英語村」、地域に出かけて行う「出張英語村」があります。「出張英語村」では、高校と連携した取組みも行っていきます。

いずれも参加された皆様から大変ご好評をいただいています。